

娘の叫び

娘がトイレから叫んでいる。

「おかあさん、来てー！ 早く！！」

娘は6歳だ。トイレでうんちをしておしりをふくときに、私を呼ぶ。それはいつものことなのだけれど、今日はいつもと違う。怖いものでも見たような、助けを求めるような声で私を呼んでいるのだ。

私が急いでトイレに行くと、娘が泣きそうな顔で、「うんちが、ね、うんちがプラプラする！」と、言う。「うんちが、プラプラ？ どういうこと？」と、私はわけがわからずに娘に聞いた。しかし、娘は「だから、うんちがプラプラするの！」と、うんちプラプラを繰り返すだけだ。

「いったいどうしたんだろう？」。私は、娘のおしりを見た。すると、確かに娘のおしりから、何かがぶらさがってプラプラしている。それは白色で、娘のおしりの穴から出て、トイレの底に届きそうなぐらい長い。

「えっ、なに？ 虫？」と、私は不安になってよく見てみた。するとそれは、うんちでもなく、虫でもなく、一本の「えのきだけ」だった。

昨日の夜は、みんなで鍋料理を食べた。お腹がすいていた娘は、えのきだけを

よくかまわずに食べた。それが娘のお腹の中を通過して、今、おしりから出ようとしている。しかし、上手に穴から出られないで、プラプラしてしまったのだ。

プラプラがえのきだけだったとわかった娘と私は大笑い。「ごはんはよく噛んで食べようね」と約束して、私は娘のおしりをきれいにふいた。

(574 字)

(2022.1 Written by Toru YOSHIKAWA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.